

1 授業の基本情報

対象授業の科目区分：教育の基礎的理解に関する科目

科目名：特別支援教育の基礎・基本

担当教員名：加藤哲則，山下光，立入哉，吉松靖文，荻田知則，中野広輔，小野啓子

登録学生数：180名

授業概要：特別支援教育の現状を知り，障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに，特別支援教育の本質及び目標と今日的課題を理解する。障害種別については，視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病虚弱に加えて，LD，ADHD及び自閉症，言語障害等についても医学・心理学・教育学の観点から概要を理解する授業である。

2 授業研究・授業評価の内容

この科目は，従来から本学部において，教科又は教職に関する科目等に区分され，初年次に受講する位置づけであった。しかし，平成29年11月に教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会が示した「教職課程コアカリキュラム」に位置づけられた「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」として，全体目標が「通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び，生きる力を身に付けていくことができるよう，幼児，児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し，個別の教育的ニーズに対して，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。」と示された。そこで，今年度から授業内容を従来の特別支援学校を中心とした構成内容から，小・中学校や通常の学級を中心とした内容に変更した。

授業評価として，本科目が教職課程コアカリキュラムに位置づけられたことから，通常の授

業評価に加えて，独自のアンケート項目を用意して実施した。独自の項目は，「この授業はあなたが教員になるために役に立つか」であった。回答は，「とても役に立つ・少し役に立つ・どちらでもない・あまり役に立たない・役に立たない」の5段階評価で行った。回答に対して，とても役に立つを5，以下，順に4，3，2，役に立たないを1として処理を行った。

受講生180名中，回答があったのは178名，そのうち過年度生や大学院生を除く教育学部1年生167名の評価を，図1に示した。

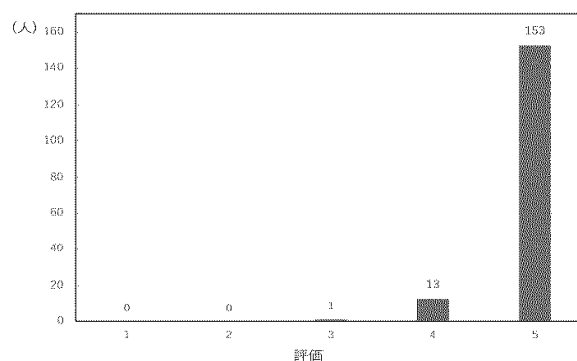


図1 教育学部1年生の評価

評価の全体の平均は4.9102であり，多くの学生が教員になるためにとても役に立つと回答した。課程別に見ると，特別支援教育教員養成課程21名のすべてが「とても役に立つ」と回答し，学校教育教員養成課程の13名が「少し役に立つ」1名が「どちらでもない」と回答した。この結果から，本科目の内容は教職課程コアカリキュラムに位置づけられた目的を概ね達成していると考えられた。

3 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

本科目では，愛媛県の特別支援教育や特別支援学校に関する資料を使用するなど，地域社会の現状を基にした内容であったと考えられる。今後も愛媛県の特別支援教育の現状を学生に提示することによって，学生の教員としての意識を高めていくことが重要であると考えられる。